

ハチに刺されて 2019-7-26

この春、庭で草取りをしていて、蜂の多さに気づいた。その時、この様子なら庭のどこかに巣をつくっているだろうと思ったが、このことは忘れていた。

春から夏にかけて、庭の仕事は忙しい。草取りを始め、伸びてくる樹木の切込み、サクランボの防鳥ネット、ビワの袋掛け、サクランボやビワの収穫、カキやミカンの摘果、予防などなど。

庭で作業している私の周りを、モンシロチョウ、アゲハチョウ、茶色や黒色のトンボ、アシナガバチ、クマバチなどが飛び回る。また、木々の葉や花の上を這い回っているのもいる。雑草の茂る雑然とした我が家の庭は、彼らには楽しい遊び場であろう。

梅雨が終わりに近づいたころ、ツバキの下の草をとり、立ち上がって驚いた。ちょうど目の高さの枝の間に大人の握りこぶし大のハチの巣が見え、その表面を多くのハチがのろのろと動き回っている。

「どうしよう？置いておくべきか？取り去るべきか？」

迷う理由がある。

私は、毎朝、庭に生えているケールの葉で青汁をつくるが、ケールの葉は青虫の大好物で、油断をすると青虫に食い尽くされる。スズメバチはケールの葉の上を這い回り、青虫を取ってくれる。私とスズメバチは仲良く虫取りで、スズメバチが私を襲うようなことはない。実に、善良なやさしいハチである。

しさし、数年前のことである。夕方、庭の灌木の下の草取りをしていたとき、腕がチクチクする。見ると腕にスズメバチが群がっていた。目を凝らすと木の茂みの奥に巣がある。あわてて、ハチを腕から追い払ったが、大分刺された。日頃は、フレンドリーな彼らも巣が荒らされるなどの危機が迫れば、襲ってくる習性がある。

青虫取りを助けてくれる温厚な戦友、有事には刺針で立ち向かう戦士。眼前のスズメバチの巣をみて、迷ったが、やはり取り去ることにした。妻や、木登り好きの孫どもが、不用意にハチの巣に手をだす恐れがあるからでる。

巣の表面のハチを追い払い、まだ、数匹の幼虫の残る巣は、近くの山の木の茂みに置いた。ハチに腕は刺されなかったけれども、心を深く刺された夏の始まりである。